

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01312

研究課題名（和文）第一次世界大戦における「模範国ドイツ」崩壊の日本に及ぼした影響の政治外交史的研究

研究課題名（英文）A Study of the Political and Diplomatic History of the Effects on Japan of the Collapse of the "Model State" of Germany in World War 1

研究代表者

小林 道彦（Kobayashi, Michihiko）

北九州市立大学・基盤教育センター・名誉教授

研究者番号：80211910

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,800,000円

研究成果の概要（和文）：『新版・山県有朋意見書』の編纂作業を継続し、新たに120点余りの山県有朋意見書を発見することができた。現在、出版に向けた最終作業に入っている。具体的には、1、入稿原稿と原文書との正誤チェックを行い、2、分担研究者による「史料解題」とともに、出版社（千倉書房）に入稿する予定である。コロナ禍により、正誤チェックのほとんどは遠隔会議方式で行わざるを得ず、対面研究会の開催も大幅な縮小を余儀なくされたが、どうにか作業を継続することができた。在外史料調査は各自がネットを通じて行い、「史料解題」に成果を反映させることにした。原稿の入稿は2023年9月までに行う予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

山県有朋（1838-1922）は伊藤博文とともに明治を代表する藩閥政治家であり、徴兵制の制定や地方自治制の導入を行っている。また、帝政ドイツを「模範国」と仰いだ中心人物でもある。山県の人物像の正確な分析は、明治国家研究の避けては通れない課題である。山県は200点以上の膨大な意見書を残しており、『新版・山県有朋意見書』の出版・公開は明治国家研究の基本的データベースを学界のみならず、広く国民一般、否、世界に提供する基本的・かつ重要な事業である。ちなみに、第一次世界大戦後の山県意見書も新たに発見できたが、ドイツ革命が日本陸軍にもたらした衝撃の大きさを窺い知ることができた。

研究成果の概要（英文）：In the course of work on the new edition of Proposals by Yamagata Aritomo, we have come across over 120 hitherto unknown proposals (written opinions), which are now in the final stages of being prepared for publication. In concrete terms, 1) we have checked the text to be submitted against the original to eliminate any possible mistakes and 2) we have been writing an introduction, both of these to be submitted to the publisher (Chikura Shobo) at the same time. Despite the fact that, due to the outbreak of the Corona pandemic, almost all our conferences had to be held online and the number of in-person meetings and presentations was greatly reduced, we managed to continue our work. Each grantee has conducted research online on sources overseas and the results of these researches and other relevant information are reflected in the introduction. The final text of our work will be submitted to the publishers in September 2023.

研究分野：日本政治外交史

キーワード：山県有朋 明治国家 徴兵制 地方自治 史料

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 明治国家は主に英独墺仏米五カ国を「模範国」に選定し、近代化、すなわち「文明化」の諸制度を適宜これらの国々から取捨選択し、導入してきた。特に独墺両国から受けた影響は甚大であり、憲法や地方自治・陸軍建設などにおいてそれは顕著であった。

ところが、1918年11月の革命によって「模範国ドイツ」ならびにオーストリア・ハンガリー二重帝国は崩壊する。それは明治国家の「屋台骨」を押し揺るがす事態であり、いかなるインパクトをその後の日本に与えたかという問題の解明は、「日本の近代」を見直す上でも避けては通れない課題である。

その際、特に注目すべきは近代日本における「ドイツ派」の中心に位置する山県有朋(1838 - 1922)の動向である。

(2) 近代日本、とりわけ明治国家の形成過程を分析する上で、山県有朋の占めている重要性については今更喋々するまでもあるまい。彼は日本陸軍の建設を担い、地方自治制の導入に尽力し、二度にわたって内閣を組織し、日清・日露戦争の戦争指導の一端を担い、伊藤博文とともに明治国家を建設した。そして、伊藤没後には元老筆頭として後継首班選任に絶大な権力を振るい、当初は政党勢力と、ついで社会主義勢力や労農運動と対峙した。山県を通して明治国家における「模範国ドイツ」の形成・展開過程を考察し、それを崩壊過程分析に繋げていくこと的方法的妥当性は明らかである。

(3) 意見書による政治的意思の表明を好んだ山県は、生涯にわたって膨大な意見書を残しており、それらは大山梓先生編『山県有朋意見書』(原書房、1966年)として刊行され、一般の利用に供されてきた。大山前掲書が日本近代史研究において果たしてきた学問的意義はまさに絶大である。それは立場の如何を問わず、日本の近代に向き合おうとする者に対して、屈強のデータベースとして機能してきたのである。

(4) しかしながら、以後半世紀以上の歳月を閲して、この間整備された様々な史料館には膨大な近代文書が集積されており、その整理と公開も進んでいる。しかも、史料のデジタル化によって検索や閲覧の効率性は飛躍的に拡大した。21世紀初頭の史料公開レベルに即した、新たな『山県有朋意見書』を編纂する機はまさに熟しきっていたといえよう。

2. 研究の目的

(1) 国内の主な史料館・図書館に所蔵されている史料のなかから「山県有朋意見書」を探索し、厳密な校訂を加えた上で史料集(『新版・山県有朋意見書』)として公刊し、専門的研究者から広く国民一般の利用に供することを目的とする。「模範国ドイツ」の崩壊については、その形成・展開過程を踏まえながら、前掲書の「解題」にて各自が所見を述べていく。

3. 研究の方法

(1) 国内の主な史料館、具体的には国立国会図書館憲政資料室、国立公文書館、防衛省防衛研究所図書館、外務省外交史料館、宮内公文書館、東京大学法学部近代日本法政史料センター等において山県有朋意見書を探索し、適宜複写または写真撮影を行った。また、国立国会図書館デジタルアーカイブズやアジア歴史史料センター、防衛省防衛研究所の館内史料検索システムなどを用いて、電子的な史料探索も積極的に行った。これらは全て原文書であり、その解読には専門的な技能が必要とされる。そしてそれらを解読し、逐一原稿に起こしていった。

(2) 『公爵山県有朋伝』、『明治天皇御伝記史料・明治軍事史』、『秘書類纂』、『明治天皇紀』、『山県公遺稿・こしのやまかぜ』、『陸軍省沿革史』(これは前掲大山本所収)、『帝国議会衆議院議事速記録』等の文献のなかから山県有朋意見書を探索し、逐一原稿に起こしていった。

(3) 以上の史料調査を行いながら、統合的なデータベースを作成した。また、翻刻原稿を原文書と照合し、誤読リスクの低減に努めた。

(4) パンデミックのため本研究開始以来、つまり2020年4月以来開催を見合わせていた対面研究会を最終年度になってようやく開始することができた。もっとも、ZOOMなどの遠隔会議システムも適宜併用している。2022年度の対面研究会(会場の多くは同志社大学今出川キャンパス、まれに北九州市立大学北方キャンパス)は、2022年5月26日、7月30日、9月17日、11月4・5日、11月26日、2023年2月20~22日、3月22・23日、遠隔会議システムによる研究会は6月23日、7月14日、8月18日、9月12日、12月28日、2023年2月17日、3月6日、3月31

日にそれぞれ開催した。

4. 研究成果

(1) 以下、年代表記は明治5年の改暦以前は機械的に元号を西暦で置き換えており(例;文久2年=1862年)、厳密な旧暦・新暦の換算は行っていない。また、史料の「発見」とカギ括弧を付けているが、これは今回の調査では世に知られていない、つまり、史料館などに所蔵・公開されていない、文字通り「本邦初公開」の私文書の類は発見しておらず、既公開史料のなかから「山県有朋意見書」をいわば再発見したにすぎないからである。とはいえ、公開されていても世に知られていないものは多く、あえて「発見」という言葉を使わせていただいた。

(2) 大山梓先生編『山県有朋意見書』(原書房、1966年。以下、「大山本」と略記)には、1871年(明治4)1月7日付「軍医寮設置建議」から1919年(大正8)4月付公爵山県有朋談「徴兵制度及自治制度確立の沿革」まで全82点もの「意見書」が収録されている。今回私どもは、山県の「懐旧記事」に依拠して、1863年(文久3)から1867年(慶應3)までの山県意見書も採録することにした。もっとも、これらはすでに『山県公遺稿 こしのやまかせ』(東京大学出版会、1979年)に載せられているものである。

(3) 明治以降の山県意見書で最古のものは、従来は前掲「軍医寮設置建議」だと考えられていたが、1869年(明治2)の「明治天皇東京再巡に関する建白」を新たに「発見」することができた。また、もっとも後年のものとしては、1918年(大正7)の「西比利亜出兵意見」が収録されているが、これは世界大戦終結以前に書かれものであり、終結後の意見書は大山本には掲載されていない。つまり、1918年11月のドイツ革命の衝撃を山県がどう受け止めたかを、直接的に物語る意見書は収録されていなかったのである。

(4) 今回私どもは、1920年1月付の「思想・教育問題に関する意見書」を「発見」収録することができた。この意見書は立花隆『天皇と東大』(文芸春秋、2005年)下巻などでも引用されているが、ともあれ、大戦後の山県意見書としては唯一のものであり、収録の意義は大きいといえよう。

(5) 『新版・山県有朋意見書』には合計190点余りの意見書を収録する予定である。「予定」としたのは、現在整理中の史料が10点ほどあり、整理の結果いかにによって多少の増減は避けられないからである。しかし、いずれにせよ、大山本全82点に比べて110点余りもの意見書が追加されることになる。これは山県有朋研究のみならず、日本近代史研究に対するそれなりの貢献だといえよう。

とはいえ、私どもの研究の基底には大山本が礎として存在していることは、ここに改めて明記しておきたい。

(6) 『倉富勇三郎日記』(倉富は枢密顧問官)や『米村靖雄関係文書』(米村は山県元帥副官)などによれば、未発見の山県意見書はまだ相当数存在しており、また、「電子的検索システム」特有の検索ワードの入力のあり方による、検索漏れなども予想されるところである。「山県有朋意見書」のデータベースに対する追加的修正・補充と、ネット上での公開を可能にするようなシステム構築は急務であるように思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 小林道彦	4. 巻 39
2. 論文標題 日英同盟と北守南進論 - 憲政党・政友会系の論説分析・1898～1903年 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 近代日本研究	6. 最初と最後の頁 1,32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小林道彦	4. 巻 39
2. 論文標題 山縣有朋の国葬に関する新聞記事について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北九州市立大学基盤教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 75,94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 瀧井一博	4. 巻 35
2. 論文標題 国制知としてのドイツ国家学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 自由民権	6. 最初と最後の頁 4,20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 192巻1 - 6号
2. 論文標題 近代日本における「理念的外交」 - 第一次世界大戦期を中心に -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 218,248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 191巻5号
2. 論文標題 記憶としての明治維新：「明治五〇年」「明治一〇〇年」「明治一五〇年」記念事業を中心とした考察（五）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 1,47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 719
2. 論文標題 近代史跡保存の現状と活用に向けての課題：政治家の邸宅を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 43,60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 18
2. 論文標題 日本におけるパリ講和会議研究の現状と課題：日本に関係する諸問題を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 吉野作造研究	6. 最初と最後の頁 78,99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智・梶原克彦	4. 巻 53
2. 論文標題 第一次世界大戦と在独日本人の抑留問題（7）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1,24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智・梶原克彦	4. 巻 54
2. 論文標題 第一次世界大戦と在独日本人の抑留問題(8)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1,26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智・安田貴雅	4. 巻 69 - 1
2. 論文標題 「ボール・ラインシュ文書」の概要(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 六甲台論集 法学政治学篇	6. 最初と最後の頁 77,86
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 711
2. 論文標題 伊藤ドクトリン	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 6,7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 705
2. 論文標題 日本とウクライナの邂逅	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 6,7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 131-4
2. 論文標題 書評・諸橋英一『第一次世界大戦と日本の総力戦政策』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 485, 492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林道彦、奈良岡聡智	4. 巻 第37号
2. 論文標題 資料「第一旅団 西南戦記」全四巻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北九州市立大学基盤教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 1, 197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林道彦	4. 巻 550
2. 論文標題 書評 森靖夫著『「国家総動員」の時代 - 比較の視座から - 』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 743, 749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林道彦、道迫真吾	4. 巻 17
2. 論文標題 萩博物館所蔵柴田家門関係資料 - 翻刻と目録 (抄)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 萩博物館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 1, 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田敏宏	4. 巻 122-10
2. 論文標題 書評 種稻秀司著『幣原喜重郎』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 54,57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 73-2
2. 論文標題 史料解題・翻刻 横田章陸軍主計講述『軍需工業動員概説』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 397,455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧井一博	4. 巻 26
2. 論文標題 大久保利通と立憲君主制への道	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神園	6. 最初と最後の頁 1,16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 7020
2. 論文標題 遅れてきた帝国主義国家 世論におもねった外交：対華21カ条要求	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊東洋経済	6. 最初と最後の頁 62,63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹中亨	4. 巻 3月21日
2. 論文標題 書評 田嶋信雄・田野大輔編『極東ナチス人物列伝 - 日本・中国「満州国」に蠢いた異端のドイツ人たち -』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 公明新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 513
2. 論文標題 国家総動員の歴史が問う「国民の自覚」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 76,82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森靖夫	4. 巻 420
2. 論文標題 <史料解題・翻刻> 横田章陸軍主計正講述『軍需工業動員概説』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本浩延	4. 巻 419
2. 論文標題 浅沼稻次郎「列国議会同盟派遣団 訪米・訪欧日記 1939年6月30日～10月2日」翻刻と解題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社法学	6. 最初と最後の頁 83,175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 186-5・6
2. 論文標題 記憶としての明治維新：「明治五〇年」「明治一〇〇年」「明治一五〇年」記念事業を中心とした考察 (二)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 72,106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 188-2
2. 論文標題 記憶としての明治維新：「明治五〇年」「明治一〇〇年」「明治一五〇年」記念事業を中心とした考察 (三)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 1,36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 巻 188-3
2. 論文標題 記憶としての明治維新：「明治五〇年」「明治一〇〇年」「明治一五〇年」記念事業を中心とした考察 (四)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法学論叢	6. 最初と最後の頁 1,33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智、梶原克彦	4. 巻 49
2. 論文標題 資料紹介 第一次世界大戦と在独日本人の抑留問題 (三)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1,21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奈良岡聡智、梶原克彦	4. 巻 50
2. 論文標題 資料紹介 第一次世界大戦と在独日本人の抑留問題(四)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛媛大学法文学部論集 社会科学編	6. 最初と最後の頁 1,58
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件(うち招待講演 8件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 近代日本における「理念的外交」- 第一次世界大戦期を中心に -
3. 学会等名 日本国際政治学会2022年度研究大会、部会1「日本外交における『価値』の再検討」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森靖夫
2. 発表標題 日本の総力戦体制
3. 学会等名 第2回日中若手研究者フォーラム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 "The Emperor as Captive of the Constitution", The Age of Monarchy/Monarchy for the Ages: Revisiting Monarchy from a Comparative Perspective,
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 The German “Staatswissenschaft” in Meiji Japan, Symposium “Globalizing the Social Sciences German-East Asian Entanglements in the 19th and 20th Century”
3. 学会等名 Deutsches Institut fuer Japanstudien (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀧井一博
2. 発表標題 Pacific Rim Parliamentary History from the Japanese Perspective
3. 学会等名 American Historical Association, Annual Meeting, Panel ” Pacific Rim Parliamentary History, 1850 1945 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奈良岡聡智
2. 発表標題 The emergence of Japan 's “Monroe Doctrine for Asia” : stereotyped criticisms of the 21 Demands to China by the Japanese media in 1915
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森靖夫
2. 発表標題 近代日本の国防思想 - 「石原イズム」とは異なる系譜について-
3. 学会等名 東北大学国際文化研究科・国際日本研究講座企画公開講演 (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 瀧井 一博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 528
3. 書名 大久保利通	

1. 著者名 瀧井一博	4. 発行年 2023年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 増補・文明史のなかの明治憲法	

1. 著者名 奈良岡聰智	4. 発行年 2023年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 25
3. 書名 明治日本における「外交」の創始と外交官の英語能力（瀧井一博、アリスティア・スウェール編『明治維新と大衆文化』）	

1. 著者名 奈良岡聰智	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 23
3. 書名 普通選挙と政党政治 - 疑獄・乱闘・「党弊」（筒井清忠編著『昭和史研究の最前線：大衆・軍部・マスコミ、戦争への道』）	

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 16
3. 書名 政党政治論（山口輝臣・福家崇洋編『思想史講義【大正篇】』）	

1. 著者名 森靖夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 15
3. 書名 国家総動員論（山口輝臣・福家崇洋編『思想史講義 戦前昭和篇』）	

1. 著者名 森靖夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 2
3. 書名 軍部と政治（岩城卓二・上島享他編『論点・日本史学』）	

1. 著者名 森靖夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 26
3. 書名 国家総動員体制の動揺（川島真・岩谷將編『日中戦争研究の現在－歴史と歴史認識問題－』）	

1. 著者名 野田宣雄著、竹中亨・瀧井一博他共編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 512
3. 書名 「歴史の黄昏」の彼方へ - 危機の文明史観 -	

1. 著者名 竹中亨	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 22
3. 書名 “The Reception of Wagner in Japan at the Turn of the Twentieth Century: A Non-musical Dimension of Cross-Border Music Transfer,” in Joanne Miyang Cho (ed.), Musical Entanglements between Germany and East Asia: Transnational Affinity in the 20th and 21st Centuries, Basingstoke	

1. 著者名 奈良岡聡智	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 19
3. 書名 第一次世界大戦と対華二十一カ条要求（筒井清忠編『大正史講義』）	

1. 著者名 Cho, Joanne Miyang (Ed.) 竹中亨他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 440
3. 書名 Musical Entanglements between Germany and Asia	

1. 著者名 瀧井一博編著、奈良岡聡智、小林道彦他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 596
3. 書名 「明治」という遺産	

1. 著者名 C. シュミット、F. ハルトゥング、E. カウフマン著、初宿 正典編訳、瀧井一博他翻訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風行社	5. 総ページ数 226
3. 書名 第二帝政の国家構造とビスマルクの遺産	

1. 著者名 松田 文彦、今西 純一、中嶋 節子、奈良岡 聡智	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 400
3. 書名 清風荘と近代の学知	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 浩延 (Matsumoto Hironobu) (30844089)	同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員 (34310)	
研究分担者	森 靖夫 (Mori Yasuo) (50512258)	同志社大学・法学部・教授 (34310)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	瀧井 一博 (Taki Kazuhiro) (80273514)	国際日本文化研究センター・研究部・教授 (64302)	
研究分担者	竹中 亨 (Takenaka toru) (90163427)	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構・研究開発部・特任教授 (82646)	
研究分担者	西田 敏宏 (Nishida Toshihiro) (90362566)	福山女学園大学・現代マネジメント学部・准教授 (33906)	
研究分担者	奈良岡 聡智 (Naraoka Sochi) (90378505)	京都大学・公共政策連携研究部・教授 (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	齊藤 紅葉 (Saito Momiji)		
研究協力者	伊丹 明彦 (Itami Akihiko)		
研究協力者	高田 和磨 (Takada Kazuma)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	落合 拓磨 (Ochiai Takuma)		
研究協力者	中西 友汰 (Nakanishi Yuta)		
研究協力者	明海 輝 (Akemi Hikaru)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関